

皆さん、おはようございます。本日で第1学期が終了します。

4月からの約4ヶ月間、皆さんはどのように過ごしたでしょうか。私は始業式や入学式で、「自分の可能性を信じて、失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦してほしい」と伝えました。この1学期を振り返って、自分を高める挑戦ができたでしょうか。

本校には「三立」という大切な教育方針があります。皆さんは「学業」「部活動」「学校行事」のすべてに、本気で向き合えたでしょうか。

今日はこの「三立」の中から、特に「学校行事」について話をします。

本校には、リレーカーニバルやボートレース大会、そしてこれから迎える運動会など、伝統ある独自の行事が数多くあります。なぜ、本校はこれほど学校行事に力を入れるのでしょうか。それは、皆さんの「自主性」を育てたいからです。企画から運営まで、先生方に頼るのではなく、自分たちで考え、対話を重ね、時には困難を乗り越えていく。そのプロセスそのものに大きな価値があります。

自主性を重んじた学校行事を通じて、皆さんは社会で生きていくための大切な力を育んでいます。今日はその中から、皆さんに特に心に留めてほしい2つの力を紹介します。

一つ目は、「協調力」です。

これは、仲間と心をつなげて物事を成し遂げる力です。これから迎える運動会の準備を想像してみてください。みんなで協力し、試行錯誤しながら努力が形になっていく過程で、グループの結束や学校全体の一体感が生まれます。

当日の朝、グラウンドに立ったとき、各グループが競い合いながらも、「東高」として一つの強い絆を感じるはずです。10年、20年が経ったとき、皆さんの記憶に残るのは、当日の勝敗以上に、仲間と汗を流した準備のプロセスです。行事は決して一人では成り立ちません。仲間と心をつなげて何かをやり遂げた経験は、これからの人生における揺るぎない土台となります。

二つ目は、「支援力」、すなわち「利他の心」です。

「利他」とは、自分のことだけでなく、他人の幸せを願い、周囲のために尽くそうとする心です。自分を後回しにしてでも仲間をサポートし、助け合える力こそが、集団を本当の意味で強くします。

学校行事では、グループリーダーたちの献身的な姿に目が留まりがちですが、それだけではありません。行事を成功させる裏には、決して目立たなくても、裏方として集団を支え続けている仲間が必ずいます。

先日のボートレース大会を思い出してください。ボート部、放送部、そして生徒会などの仲間たちは、自分のグループやクラスの輪の中にいたでしょうか。彼らは、それぞれの役割と責任に徹して、大会全体を支えていたはずです。私たちは、こうした裏方として支えてくれる仲間の存在に、もっと目を向け、感謝しなければなりません。

本校の行事には、この「支援力（利他の心）」を目にする機会が数多くあります。「今日は誰が私たちを支えてくれているのだろうか」「みんなのために、今の自分ができることはないだろうか」——行事に真剣に取り組む東高だからこそ、そんな風に互いを思いやれる、温かく強い集団でありたいと思います。

近年、AIの進化には目を見張るものがあります。しかし、今日話した「協調力」や「支援力（利他の心）」は、AIには真似のできない、人間ならではの尊い力です。「タイパ（タイムパフォーマンス）」や効率ばかりが重視される現代だからこそ、他者と深く関わり、支え合う経験が、これまで以上に価値を持っています。

だからといって、私は「学校行事だけを頑張きなさい」と言っているわけではありません。「学業」「部活動」「学校行事」、このどれ一つとして無駄なものはなく、すべてに本気で挑戦する姿勢こそが、皆さんを人間として一回りも二回りも大きく成長させてくれると確信しています。

明日からいよいよ夏休みが始まります。この長い休み中も「三立」の精神を胸に、一日一日を大切に、有意義な時間を過ごしてください。2学期の始業式に、さらに逞しく成長した皆さんと笑顔で再会できることを期待して、第1学期終業式の式辞といたします。